釈文の訂正と追加（六）

愛知・志賀公園遺跡（第二四号）

1 所在地　愛知県名古屋市北区中丸町三丁目
2 調査期間　一九九六年（平8）四月～一九九九年三月
3 発掘機関　愛知県埋蔵文化財センター
4 調査担当者　永井宏幸ほか
5 遺跡の種類　集落跡・自然流路
6 遺跡の年代　弥生時代中期～江戸時代
7 木簡の釈文・内容

志賀公園遺跡では古代の木簡が六点出土し、本誌第二四号で報告した。今回追加する木簡は、九六A区SD〇六から出土した中世の卒塔婆二点である。SD〇六は、下位に須恵器など古代の遺物を含む層が確認でき、堆積状態から流路の可能性がある。卒塔婆の年代は、共伴する山茶椀の年代観から、いずれも一三世紀前半と考えられる。

(1)「□」　490×30×3　061

(2)
・□□□□　□□大日如来□□□」　(324)×21×4　061

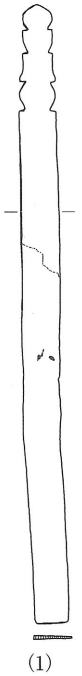
(1)は完形の卒塔婆。頭部に五輪塔状の切り込みがみられる。墨痕は一カ所確認できるが内容は不明である。

(2)は頭部が一部欠損しているもののほぼ全形を確認できる。頭部には切り込みによる五輪塔状の加工がみられる。表面は梵字バン（バン）に続き、「大日如来」まで判読できるが、以下三字分については判読できない。裏面は六文字分の墨痕が確認できるが、判読できない。

9 関係文献

愛知県埋蔵文化財センター『志賀公園遺跡』（二〇〇一年）

（永井宏幸）


(1)

(2)